

まえがき

政治分析、政治史研究の基本的視点を見直すべきときが来ていると思う。

ほとんどの政治研究者は、政治の動きを、つねにナンバー1政治家を中心に観察し分析し研究し、記述する。すべてナンバー1の動きを軸にして見ようとしてきた。だが、このナンバー1史観では、真実の政治の動きを記録することは困難だと思う。

歴史は、ときとしてナンバー1ではなく、ナンバー2実力者を主軸にして動く。しかし、多くの政治記者や政治研究者は、ナンバー2の存在を無視して、ナンバー1を主軸にして政治事象を説明しようとする。これは歪んだ固定観念である。この姿勢は改めなければならぬ。

政治を観察し、研究し、報道したり、研究書として記録する者は、行きすぎたナンバー1史観への過度のこだわりを克服しなければならない。

現在進行中の日本の政治を報道したり、記録として後世に書き残すことを職業とする者は、現在の日本の政治が、とくに平成時代、令和初期の政治は、二階俊博幹事長を中心に動いているという真実に気づくべきである。

歴史が大きく動くとき、歴史を動かす実力あるナンバー2が登場することは稀ではない。中国古代『三国志』の時代における諸葛孔明、江戸時代末期から明治初頭にかけての勝海舟、第二次大戦末期における鈴木貫太郎、一九五五年の保守合同期における三木武吉らは、ナンバー1をうわまわる活躍をし、歴史の回天役を果たした。

「実力あるナンバー2が歴史を創る」という政治史に関する学説があるが、これは正しいと思う。

第二次大戦後、日本は政治体制を変更し、議会制民主主義の国になった。それ以後、何人かの偉大なナンバー2が登場した。三木武吉だけでなく、田中角栄、大平正芳、金丸信、

二階俊博らの卓越したナンバー2実力者が活躍した。

このうち、田中角栄、大平正芳はナンバー1を目ざす途中で一時期、ナンバー2として行動したにすぎない。金丸信は実力あるナンバー2になったが、政策展開上の業績といえるものはほとんどない。

ナンバー2に徹した実力政治家で、歴史に記録される政治上の業績を上げた指導者は、戦後では三木武吉と二階俊博の二人である。

昭和末期から平成を通し、さらに令和において、政界実力者として活躍しているナンバー2実力者は、二階俊博幹事長である。現在の政界においてナンバー2の地位にあるが、実力はナンバー1である。

二階俊博の政治的業績を調べてみると、ずば抜けて大きい。

観光文化立国日本の建設、津波対策基本法制定、国連における「世界津波の日」の決定、防災減災国土強靱化政策の推進、中国・韓国・ベトナム・アジア諸国ならびにロシアとの平和友好外交の推進など、その政治的実績は巨大である。これほど大きな歴史に残る政治的業績を創造したナンバー2政治家は例がない。二階俊博こそは、近代日本の歴史におい

て、勝海舟、鈴木貫太郎、三木武吉と並ぶ偉大なナンバー2実力者である。

我々は、現代日本の政治を見直すべきである。ナンバー2実力政治家である二階俊博を、真実にもとづいて、正確に記述する必要があると考えて、本書を著すことにした。これは政治評論の仕事に携わってきた評論家としての責務であると思う。

読者諸兄姉の皆さんに、正眼をもって、歪んだナンバー1史観の固定観念にとらわれることなく、二階俊博という日本国民が誇るべき傑出した政治指導者の真実の姿に向き合うことを、お願いする。

なお、本書執筆にあたり、数多くの人々の証言を収録した。証言者は日本国内にとどまらず、実際に私が海外に渡航して面談を重ねて、それぞれの人々から証言を得た。

私の取材に快くご協力いただいた内外の諸兄姉に感謝申しあげたい。

これらの貴重な証言は、すべて私自身が直接、聞いたものであるが、証言再現に関しては、著者・森田実の文責において本書に記述したものであることを記しておく。すべての責任は、私（森田実）にあることを重ねて申し上げる。

また、本書は、日本政治史の重要な事実を後世に残すものであるため、歴史的事実の記録として、登場人物に関しては原則として敬称を略して記すことをご容赦いただきたい。

二〇二〇年三月吉日

東京新宿区の寓居書齋にて
森 田 実

二階俊博幹事長論

——ナンバー1を越えたナンバー2実力者／平和・博愛・忠恕の政治家

目次

序 章——いま、なぜ『二階俊博幹事長論』を世に問うのか 1

第一章 つねに「国民と共に」の姿勢と「平和主義」を貫く二階俊博の実像 11

- 1 二階俊博幹事長の精力的な日常活動 13
- 2 二階俊博は、平和主義を貫き多大の成果を上げてきた実力政治家 19
- 3 二階俊博は、平和・草の根重視の政治家・田中角栄の後継者 29
- 4 二階俊博は、南方熊楠の和歌山魂と自立精神の継承者 51
- 5 二階俊博は、幼少期は「神童」、高校生時代は卓越したリーダーだった 64
- 6 二階俊博の最近の発言に見る幹事長としての決意 70

第二章 二階俊博は、ナンバー1を凌ぐ最高・最良のナンバー2実力者 77

1 実力ある「ナンバー2」という存在 79

2 ナンバー2実力者は、凡庸なナンバー1を超えて歴史を創る 82

——二階俊博は「諸葛孔明・勝海舟」型の「ナンバー2」型政治家

3 諸葛孔明——劉備を徹底して補佐した天才的軍師 84

4 勝海舟——国内戦争の回避に全力を尽くし無血開城を実現 88

5 鈴木貫太郎——昭和天皇を補佐して第二次大戦の終戦を実現した忠臣 92

6 三木武吉——歴史的な保守合同で政治の安定を実現した希代の仕事師 94

7 二階俊博——最長にして最良・最高の「ナンバー2」実力者 99

8 二階俊博はナンバー1を目ざさない真のナンバー2実力者 102

第三章 二階俊博の「ナンバー1」を凌駕する抜群の政治実績 105

1 三〇年かけて観光文化立国の実現を果たした二階俊博 110

2 近隣諸国との平和友好のための旺盛な活動 120

——二階俊博は、多くの国民と共に平和友好活動を推進している

3 二階俊博は、先頭に立って防災・減災・国土強靱化政策を推進した 128

4 二階俊博の自公連立政権復活への多大の貢献 136

——二〇〇九年八月三〇日と二〇一二年一月一六日のあいだ

5 いわれなき差別の解消に全力で取り組む二階俊博 147

6 二階俊博は東洋医学を長年にわたって支援してきた 155

——鍼灸マッサージ師会最高顧問として尽力

7 二階俊博は、「選挙」の天才な最高のプロで日本政界の第一人者 162

8 二階俊博は、幹事長として党勢拡大・党財政健全化を前進させた 171

9 二階俊博は、「平和・博愛・忠恕」の政治への挑戦をつづける 178

10 長期的視点に立つ二階俊博の「新型コロナウイルス」への対応策 181

11 「新型コロナウイルス問題」をめぐる日中協力 184

——二階俊博の中国への支援と「アリババ」からの日本への支援

終章——個性ある二階俊博の政治信条と手法の考察 191

あとがき 206

二階俊博幹事長論

— ナンバー1を越えたナンバー2の実力者／平和・博愛・忠恕の政治家

序 章——いま、なぜ『二階俊博幹事長論』を世に問うのか



自由民主党の二階俊博幹事長は、二〇二〇年三月現在、自由民主党幹事長を四期連続でつとめている。自由民主党が一九五五年の保守合同によって結成されてから六五年の歳月が流れたが、この間、四期連続で幹事長をつとめた政治家は二階俊博以外にはいない。いままでの自由民主党幹事長在職の最長記録は三期連続だった。二階俊博の四期連続は新記録である。二階俊博は自由民主党の歴代幹事長のなかの最良・最高の幹事長だと言って過言ではないと思う。

自由民主党六五年の歴史のなかで、最も長期間幹事長をつとめたのは、一九六〇年代から七〇年代初期にかけての田中角栄だった。田中角栄は政治上のライバルの福田赳夫と交代で幹事長をつとめ、通算での幹事長在職の最長記録保持者だったが、二階俊博が二〇二〇年九月まで幹事長をつとめたときに、この記録は塗り替えられる。

昔、日本社会党が野党第一党だった時代の日本社会党の「ナンバー2」の肩書は「書記

長」だった。「幹事長」といえば自由民主党の「ナンバー2」を意味していた。しかし今日では、どの政党も「幹事長」という呼称を使うようになった。

ただし、自由民主党の幹事長と他の政党の幹事長とは意味が違う。自由民主党幹事長は、国会運営、選挙、党活動全般について全責任を負っている実質的権力者である。自由民主党総裁は内閣総理大臣として政府を統括することに専念するため、党のことはすべて幹事長に委ねられている。自由民主党活動の実質的決定者は幹事長であり、内閣総理大臣となった総裁は党務に口を出すこともないし、また、口が出せない。自由民主党以外の政党においては幹事長はあくまで党代表の補佐役にすぎない。

二階俊博は自己の政治家人生の最終目標を自由民主党幹事長にしている、と見られている。二階俊博は幹事長以上の地位を求めないし、また目ざそうとしてこなかった、というのが衆目の一致するところだ。だから、自由民主党総裁選において、二階俊博をまじえて、総裁ポストつまり内閣総理大臣就任をめぐる権力抗争が起こることはない。総裁にとって、もしも「ナンバー2」の幹事長が次の総裁選のライバルになる可能性があるれば、

総裁・総理の心理も立場も安定しない。

二階俊博は安倍晋三総理総裁の立場を安定させる代わりに、幹事長としての活動の自由と実権を得ている。二階俊博幹事長の最良の補佐役の林幹雄幹事長代理は、私に、「二階先生が幹事長になってから、安倍総理が何か言ってきたことは一度もない。国会運営、選挙、党運営のすべてが二階幹事長に全面的にまかされている」と語った。

二階俊博の最も近くでその活動を支えつづけてきた林幹雄の証言は正しいと思う。二階幹事長は、名実ともに最高実力者の幹事長である。

本書のタイトルを『二階俊博幹事長論』としたのは、二階俊博幹事長には、自由民主党だけでなく、「日本政界全体の幹事長」という性格があり、またそれにふさわしい活動実績を積み上げてきたと私を感じるからである。二階俊博は、わが日本国民全体の「幹事長」にふさわしい最高の実力政治家である。本書のタイトルには、この私の主観が込められている。

確かに、二階俊博幹事長時代が無限につづくわけではない。早ければ二〇二〇年九月で

終わるかもしれない。しかし、そうなっても、自由民主党幹事長四期連続と九月に達成する自由民主党幹事長在職最長記録は、驚嘆すべき大記録である。「日本政治史上の最も偉大な幹事長」として記録され、人々に記憶されることになると思う。

二階俊博は一九八三年の衆議院議員選挙で初当選し、今日まで連続一二回当選をつづけている。いまは消滅して存在しない民主党が大勝した二〇〇九年八月三〇日の衆院選においても、二階俊博は小選挙区で勝利している。二階俊博は選挙に強い。負けたことがない。とくに二〇〇九年の衆院選のときは、民主党から総攻撃を受けたが、はね返している。二階俊博には弱点がないから、たとえ反対陣営から個人攻撃を受けても、その地位が揺らぐことはない。

本書で詳しく論じるが、二階俊博は、倫理面でも知性の面でも、有権者との一体感においても、卓越した政治家である。

ほとんどの政治家が、政治家となった以上、政界トップの座、つまり内閣総理大臣を目標ざしている。しかし、二階俊博はトップを旨ざすことなく、「ナンバー2」の地位以上を

求めようとせずに、自らの政治家としての信念、理想を実現するため努力している。

多くの政治家に、この生き方を見習ってほしい、と私は願う。本書を執筆する目的のひとつは、若い政治家に、トップを目ざすだけが政治家の生き方ではないこと、「二階俊博的ナンバー2政治家人生」も十分に価値のあるものであることを知ってほしいからである。

本書のサブタイトルを「平和・博愛・忠恕の政治家」としたのは、二階俊博が徹底した平和主義に立つ政治家であり、博愛の政治家であるとともに、国民全体・人類全体への限りないやさしさと思いやりをもった政治家であることを示したいからである。「忠恕」は『論語』のなかの言葉で、民衆に対する限らない「思いやり」を意味している。

近代以後、日本政治には、何人かのすぐれた「ナンバー2」が登場した。江戸時代末期から明治時代初頭にかけての勝海舟、第二次世界大戦終戦時の鈴木貫太郎、保守合同時代の三木武吉らである。本文中で「ナンバー2」論を詳述するが、二階俊博は、これら歴史上の「ナンバー2」政治家に匹敵するのみならず、それを凌駕する偉大な「ナンバー2」だと私は思っている。

多くの若い政治家に、必ずしも「ナンバー1」を目ざすことなく、勝海舟、鈴木貫太郎、三木武吉、そして現代の「二階俊博的ナンバー2政治家人生」を目ざして努力してほしいと願う。これら「ナンバー2」政治家は、歴史上の業績において、「ナンバー1」政治家をはるかに凌駕している。これは歴史が証明していることである。

二階俊博の政治家人生には、これから政治家を志す若い人々にとって学ぶべきものが非常に多い。いや政治家のみならず、世のため人のために生きたいと考える多くの人々にとって二階俊博の生き方は、それぞれの人生において貴重な指針となりうるものである。

道徳的で質素な私生活、強い郷土愛、徹底した平和意識、民主主義的な政治感覚、不当な差別に決して同調することのない強い平等思想、国民大衆との一体感、つねに努力を惜しまない生き方、不屈の樂觀主義など、若い政治家諸君ならびに次代を担う人々たちには、二階俊博を理想の政治家像・人間像の規範として自らの生きる方向性を定めてほしいと願う。

たとえ「ナンバー1」にならなくても、政治家として国民のため、人類のために十分に

働くことができることを、二階俊博の政治生活から学んでほしいとの願いを込めて、さらに、人類の幸福と繁栄のために政治の道を歩もうとするすべての善良なる人々の教科書として活用していただくことを願い、本書を刊行する。



森田 実 (もりた・みのる)

1932年、静岡県伊東市生まれ。東京大学工学部卒業。日本評論社出版部長、『経済セミナー』編集長などを経て、1973年に政治評論家として独立。テレビ・ラジオ・著述・講演活動など多方面で活躍。中国・山東大学名誉教授、東日本国際大学客員教授。東日本国際大学「森田実地球文明研究所」所長。著書に『森田実の言わねばならぬ 名言123選』『一期一縁』『公共事業必要論』『防災・減災に資する 国土強靱化政策が日本を救う!』『森田実の永田町政治に喝!』など多数。インターネットFacebookにて随時論攷を発表している。

二階俊博幹事長論

ナンバー1を越えたナンバー2実力者／平和・博愛・忠恕の政治家

2020年4月25日 初版第1刷印刷

2020年4月30日 初版第1刷発行

著者 森田 実

発行者 森下紀夫

発行所 論創社

東京都千代田区神田神保町2-23 北井ビル

tel. 03 (3264) 5254 fax. 03 (3264) 5232 web. <http://www.ronso.co.jp/>

振替口座 00160-1-155266

装幀／宗利淳一

印刷・製本／中央精版印刷 組版／フレックスアート

ISBN978-4-8460-1937-2 ©2020 Morita Minoru, printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。